

所環審第10号

令和6年 2月 2日

所沢市長 小野塚 勝俊 様

所沢市環境審議会
会長 天野 正博

「所沢市マチごとエコタウン推進計画（第3期所沢市環境基本計画）」

の改定について（答申）

令和4年5月20日付け所マ第14号で諮問された標記のことについて、別紙
のとおり答申いたします。

(別紙)

答 申

1. 「所沢市マチごとエコタウン推進計画（第3期所沢市環境基本計画）」中間改定案
答申として別添のとおり計画案を取りまとめました。

2. 答申にあたっての意見

以下のとおり意見を申し添えます。

審議会におきましては、本計画の審議・検討に際して、現行の「所沢市マチごとエコタウン推進計画（第3期所沢市環境基本計画）」における環境施策の実施状況等を点検するとともに、脱炭素社会の実現に向けた世界的な動向や社会情勢を踏まえ、「将来像」や基本方針を受け継ぎながら、施策体系、目標指標等の見直しを検討してまいりました。

特に、脱炭素社会の実現のための取組については、行政だけでなく市民や事業者の取組が不可欠であることから、所沢版気候市民会議である「マチごとゼロカーボン市民会議」やパブリックコメントにおける市民の意見を尊重するなど、幅広く市民意見の聴取に努めてまいりました。この結果を踏まえ、市民・事業者など誰もが理解しやすく、実践につながる計画を目指し、別冊の「所沢市脱炭素ロードマップ」として取りまとめました。

また、世界各地で起こっている気象災害は、日本でも日々激しさを増している現状を踏まえ、新たに「所沢市気候変動適応計画」を策定し、本計画に内包させる構成としております。

市におかれましては、本計画に基づいて、大規模太陽光発電設備の導入や地域新電力会社の設立、官学連携による気候市民会議の開催など、脱炭素社会の実現に向けた取組を率先して力強く推進してきたことと思います。また、世界的にも取組の加速が期待されるみどり・生物多様性分野においても、これまで長期にわたり市域のみどりを保全する姿勢を貫いてきたことと理解しています。こうした取組の積み重ねは、間違いなく所沢市ならではの社会的特性、自然環境特性を形成してきたものと考えます。

この所沢市の豊かな環境を将来世代に残していくために、留まることを知らず複雑・多様化していく環境問題に対して、一刻も早い対応が求められています。昨年制定された「所沢市脱炭素社会を実現するための条例」のとおり、市のみならず市民・事業者の全てが連携し、現在そして未来の子どもたちが恵み豊かに暮らせる所沢となるよう、有効な施策を加速させていくことを切に期待します。